

# 試験研究（事後）評価整理表

意見整理表3(事後評価)

試験研究機関名 農業試験場

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	外部評価アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期		
1	5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発 10-1持続性の高い生産方式の推進	野菜における環境負荷軽減生産技術の開発	環境負荷軽減フィルム類の利活用技術	生分解性マルチフィルムは、プラスチックフィルムの代替として使用でき、廃プラ排出量削減に有効な資材である。ここでは、生分解性マルチフィルムの特性及び野菜栽培への適応性を明らかにし、その利活用に資する。	1 数種の生分解性マルチフィルムの耐久性・土中分解性を明らかにした。 2 野菜栽培における生分解性マルチフィルムの適応性を確認した。	平成14	平成17	B	・省力化にも大きな効果が認められ、何よりでした。
2	4-1多彩な農業の展開 4-2品目別生産の展開 5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	夏期冷涼な気象条件を活かした会津山間地域特産物の開発と栽培法の確立	ホウレンソウ栽培ほ場の施肥管理技術の確立	ホウレンソウの生育障害の原因を土壌肥料的見知から解明し、対策技術を確立する。	過度の有機物依存栽培による土壌塩基バランスの悪化、有機物並びに化学肥料による過剰な窒素施肥による土壌硝酸濃度の上昇が生育障害の原因と判明した。	平成14	平成15	A	・生育障害に関わる要因を解決したことは、評価される。
3	4-1多彩な農業の展開 4-2品目別生産の展開 5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	ネギ生産における高品質化・周年安定化技術の開発	ネギ生産における高品質化・周年安定化技術の開発	高品質化に向けた県内在来ネギの活用、周年生産のためのハウスネギ栽培の効率化、また産地を拡大するための栽培適地拡大を目的とした平床栽培技術の開発を行う。	1県内在来の高品質ネギの特性を把握し、機械化栽培適応性を確認した。 2端境期出荷が可能なハウスネギの簡易軟白法を開発した。 3栽培適地拡大に有効な平床栽培法を開発した。	平成14	平成15	A	・曲がりねぎは全国にも知られた特産物です。安定した品質のねぎの安定収量を確保するため成果が得られましたね。
4	4-1多彩な農業の展開 4-2品目別生産の展開 5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	データベース・モデル協調システムの開発	気象変動下における作物生産シミュレーションモデルの構築	いもち病発生予察モデル、水稻の栄養診断、土壌診断プログラム、水稻の生育モデルを統合し、ネットワークで利用できるように改良し、予測、診断の精度向上と利便性を図る。	いもち病発生予察に必要な情報のネットワークでの収集、水稻の生育モデルの改良および土壌診断、栄養診断プログラムの改良を行った。	平成13	平成17	C	・冷害に対する農家の技術はしっかりしているでしょうか。
5	5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発 10-1持続性の高い生産方式の推進	農業依存度軽減のための高精度発生予察技術の開発	伝染源量推定および気象予測に基づいた穂いもち防除技術の開発	穂いもち防除を適期で実効あるものとするため、穂いもちの伝染源として、葉いもちが果たす役割を解明する。また、葉いもち発生状況と出穂期前後の気象予測から、効率的な穂いもち防除要否の意志決定支援技術を構築する。	分子生物学的手法を利用し、止葉、次葉など上位葉での葉いもち病斑が穂いもち伝染源として重要であることを解明した。また、上位葉での葉いもち発生状況と出穂期前後の降水確率予測から、穂いもちの防除要否を判断する防除意志決定支援のための基本的フローを構築した。	平成13	平成17	B	・今後に結びつく結果が得られているようです。すばやい情報提供が可能になるように。
6	5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発 9-1農作物の安全性の確保 10-1持続性の高い生産方式の推進	残留農薬簡易高精度分析を活用した安全な農作物生産技術の開発	残留農薬簡易高精度分析を活用した安全な農作物生産技術の開発	1 トマト栽培における簡易高精度な抗原抗体反応を利用した低コスト残留農薬分析法を確立する。 2 生産現場において活用できる、迅速、かつ高精度で容易な分析工程を確立する。	1 イムノアッセイ分析法において通常使用する抽出溶媒、希釈液を変えることで、機器分析と同等の精度を得た。 2 TPNの分析時間をよりさらに短縮できた。 3 生産現場で活用できるTPNの分析工程マニュアルを作成し、高精度で簡易な農薬残留分析を短時間で行うことが可能となった。	平成13	平成15	B	・自分で測定することのできる方法で、安全・安心な作物の提供へとさらに関心が高まると思われる。
7	2農業経営の安定 5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	高度経営管理技術・運営システムの確立	経営体を支援する生産システムの構築	地域営農推進に資するため、農地や労働力等地域資源を効率的に活用する地域営農モデル策定手法の検討と、地域営農体制の構築及び地域条件に適合した合理的な営農モデルの策定を行う。	地域営農モデル策定のための手法の組み立てを行い、その手法を利用して水田・畑作及び水田・転作を基幹とした合理的な地域営農システムモデルを構築した。	平成13	平成15	B	・評価は妥当である。